

街路樹

優れた教師が備えるべき資質・条件



教師の資質を高めることは、学力向上に欠かせませんね。

平成17年の義務教育特別部会(第3回)配付資料として梶田毅一兵庫教育大学学長が提出のもの。1部を抜粋して紹介します。

【教職にあるものが努力すべき主要ポイント】

- I 子どもとの間に教育的関係を築ける力を持つ
(対人的関わり能力の点での成長)
 - 1 教育に対する熱意・情熱にあふれている
 - 2 子どもと一緒に遊んだり談笑したりすることを喜びとする
 - 3 子どもの内面の気持ちや感情を敏感に感受できる
 - 4 子どもに軽視されたり無視されたりしない存在感を持つ
 - 5 子どもと心のつながりを深める方法をいろいろ身につけている
- II 人間的社会的に成熟した存在であること
(人間として社会人としての成長)
 - 1 開かれた柔軟なパーソナリティを持つ
 - 2 自己受容し自信を持って心理的に安定している
 - 3 人間的な暖かさや協調性を持つ
 - 4 社会的な常識と責任感を持つ
- III 集団を指導する力と一人ひとりを生かす力とを合わせ持っている
(集団指導の専門家としての成長)
 - 1 公平でえこひいきがなく一部の勢いの強い子どもに引きずられない力を持つ
 - 2 集団としての全体的動きと同時に一人ひとりの状況を把握できる力を持つ
 - 3 集団に対する指示が的確で規律正しく活動させることのできる力を持つ
 - 4 集団全体に熱気と活気を与え皆の気持ちを一つの方向に集中させる力を持つ
- IV 担当する教科等の指導力を深める
(教科指導の専門家としての成長)
 
 - 1 教科・教材の内容や筋道、節目となるポイント、背景等について理解を深める
 - 2 教科・教材の多様な指導方法や活動展開のあり方について理解と技能を持つ
 - 3 学習過程でのつまずきや落とし穴とその対応方策について深い理解を持つ
 - 4 教科書と黒板の活用の他に広範な教授メディアを活用できる技能を持つ
 - 5 学習や成長を把握するための広範な評価技法を教育的に活用できる力を持つ
- V 自己教育力を持ち常に成長し続ける
(学び続ける知識人としての成長)
 - 1 自分自身に対して謙虚な気持ちを持ち常に学び続けようとする姿勢を持つ
 - 2 精神的深さに対する感覚を持ち求道的に生きていく姿勢を持つ

いじめを見抜く目を!



子どもから、「〇〇くんいじめられているみたい。先生何とかしてください。」という訴えがありました。先生が〇〇くんに直接聞いてみると、「大丈夫です。じゃれ合っているだけです。」という答えが・・・

いじめられているのに本人が「大丈夫」と言うケースに対し、どう対応したらよいのでしょうか?

「大丈夫」というのには、いくつかの理由が考えられます。

- ① 教師に知られると、「チクった」と受け取られ、いじめがエスカレートすることを恐れている場合
- ② 加害者側から、いじめ行為を隠すため「大丈夫」と言うように強要されている場合。
- ③ いじめを認めてしまうと、「いじめられっ子」というレッテルを貼られ、居場所がなくなるという心理が働く場合。

いずれの場合でも、本当は「誰か助けてー」と言いたいのです。

いじめをする子どもは、何らかの不満やストレスを抱えています。そのはけ口として、自分より弱い者に対していじめを始めるようになります。いじめ側の子どものグループのリーダー的存在である場合には、そのグループが中心となりいじめが集団化することもあります。

子どもの表面だけを見ていませんか? 子ども一人ひとりの心に寄り添った指導をしているでしょうか? いじめられる子ども、いじめている子ども、それぞれを救ってあげられるのは、我々教師ではないでしょうか。



発達検査活用法

数年来、発達検査依頼件数が多くなっています。多くは「落ち着きがない」「自己抑制ができない」「集中力がない」「指示が通らない」等、情緒面からのもので占められています。

先生方の多くが障がいのある子どもたちと接し、日々奮闘しているのだろうと現場のがんばりに敬意を表します。また、言うことをきかず勝手に振る舞う子どもに手を焼き、心を痛めている先生も少なくないはずです。

一方で、障がいを持つために学校生活に困っている子どもたちを思うと、苦しんでいるのだろうなと胸が詰まります。多動傾向がある子どもたちの多くは自分がしてしまう行動の意味や理由がわからずに苦しんでいます。抑えが効かない自分を責めても、解決策が見つからずにやけになっている子どももいます。

そんな中だからこそ、発達検査結果が子どもの特性に合う対応の手がかりになってくれることを願わずにはられません。

